

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響で売上は減少すると予想していたが、前年並みにとどまった。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・消費税増税の影響は、想定よりも小さい。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税直後の4月の販売量は厳しかったが、5月は徐々に回復してきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・消費税増税直後の4月は前年より下回ったものの、5月は前年を上回っている。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・生鮮食品は4月後半より回復している。来店客数は競合店との競争で厳しいものの、売上は生鮮食品の単価上昇で前年並みを維持できている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・販売量は前年を上回っている。特に週末は、おにぎりやサンドイッチが好調である。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク直後は厳しい局面が2、3日は続いたが、それ以降は堅調に推移している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・4月は消費税増税の反動により化粧品・日用品部門で売上が減少したものの、5月は前年を上回っている。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・従前から比較的高額なサービスやオプションサービスの引き合いは増加していたが、最近では更に増加傾向にある。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・5月は非常に好調に推移している。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークレースとボート場最大のレースである62周年レースが5月にあった。ゴールデンウィークレースの売上は、前月比10.9%、3か月前比20.7%、前年比9.5%の増加であった。周年レースの売上は前年比6.98%の増加であった。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・消費税増税も定着してきている。
	変わらない		商店街（事務局長）	来客数の動き
		商店街（代表者）	お客様の様子	・アベノミクス効果が浸透しないまま、中だるみしている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・現在、設備更新等により、前年並みの売上を何とか維持している状態。販売量にほとんど変化はない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・消費税増税後の価格上昇に伴い、購買意欲が減退している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・消費税増税で単価は下落すると思っていたが、意外にも上昇している。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・駆け込み需要の反動減は想定内である。生鮮品の好調もあり、前年比プラスに回復した。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・建設業のお客様が減少し、一般の客はわずかに増えている。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・前月よりは改善しているものの、依然として売上は前年を下回っている。顧客の来店は比較的安定しているが、新規客の動きが悪く、売上増につながらない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税後、売上は伸び悩んでいる。消費意欲の改善はみられない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークにより来客数が減少。消費意欲は依然として低い。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・5月の来客数は前年より減少しており、消費税増税に加え、景気回復の鈍さが要因とみている。ただ、6、7月の予約状況は少し改善してきている。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・4月は消費税増税の影響で個人旅行の申込が減少したが、5月は申込が徐々に増えており、3か月前の水準まで回復しつつある。

		タクシー運転手	来客数の動き	・仕事量の変化はない。四国霊場開創1200年の記念の年なのに乗客数は予想を下回っており、前年並みの状況にある。
		タクシー運転手	お客様の様子	・5月は例年、月末に向け改善していく傾向にあるが、今年は全体的に客足が悪く、上向かなかった。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客単価は一部に回復がみられたものの、来客数の伸び悩みが続いている。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・建築費が依然として高止まっており、先行きは不透明である。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク中の来街者数はかなり確保できたものの、それ以降の平日は減っている。また、夏物商戦の動きが鈍く、消費税増税の影響がまだ続いている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・消費税増税の影響から、客の購入単価が下がった。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・4月からの消費税増税により高額品・衣料品などの売上が減少したものの、想定範囲内である。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・4月は消費税増税前の駆け込み需要の反動減がみられたが、5月に入ると徐々に回復してきている。しかし、消費税増税前の水準までは回復していない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・消費税増税の反動がみられる。
		その他飲食〔ファストフード〕（経営者）	来客数の動き	・消費税増税後も飲食業には影響が少ないと予想していたが、客単価の高い業態では来店客数が減少傾向にある。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・消費税増税が、来客数に影響を及ぼしている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・モデルハウスへの来客数は前月並みであるが、問い合わせの数が減っている。
悪くなっている		一般小売店〔乾物〕（店員）	販売量の動き	・消費税増税により売上は伸び悩んでいる。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・消費税増税やパソコンのOSソフトのサポート終了に伴うパソコンの駆け込み購入の反動で販売量が減り、特にパソコンが激減している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税の反動が予想以上で、5月の新車の受注状況は前年比70%以下である。
		乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・5月以降、新車受注は激減しており、消費税増税の反動が依然続いている。6月の受注状況が改善されなければ景気は落ち込むが、下げ止まりが見受けられると回復する。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・5月の受注台数は前年比64%と、2か月連続で大幅減となった。
企業動向関連 (四国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・消費税増税による売上への影響は大きくない。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響で4月の売上は前年より減少したものの、5月は順調に受注があって、影響はほとんどない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・最近、受注状況は改善しつつある。太陽光発電はもちろん、工場の増設等の受注も着実に増加している。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・マンション業者の販売状況が好調。仕入価格の販売価格への転嫁も進みつつある。
変わらない		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の4月は横ばいで推移していたが、5月の売上は連休もあり、少し落ち込んだ。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・主力の造船関連鉄鋼品は、造船業界の2014年問題で本年中のデリバリー船が少なく、年初来、低迷が続いている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内外ともに受注が堅調である。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・得意先からの注文や出荷量に大きな変動はない。
		建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・民間工事受注量は少し増えたものの、利益は横ばいの状態。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・手持ち業務量が相当量残っているため、その消化で、売上も数か月前と比べほとんど変化がない。

		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・人手不足が続いている。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・業界のルールが大きく変わりそうな為、様子見の雰囲気があるが、概ね良好と感じる。
		公認会計士	取引先の様子	・今月の各企業の決算、月次決算等を見る限り、前年比で変動している企業は少ない。
	やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・得意先（量販店、小売店）の売上が伸び悩んでいる。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・5月の取扱物量は、前年比20%程度減少。消費税増税による駆け込み需要の反動とみられる落ち込みが4月以降続いている。夏場にかけて、飲料やエアコン等の季節商材の動きが活発化すると期待しているが、今後の気温や天候に左右される。
	悪くなっている	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・全体的に貨物量が減少。通年は輸送量に変動は無く、消費税増税前に需要の先食いがあったとみられる。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(四国)	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求人はでているが、求人募集をしても人が集まりにくく、各業種で人手不足になりつつある。
		人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・4月以降、消費税増税の影響はあったものの落ち着いてきており、新規事業や繁忙期対応などの求人数が徐々に増えている。求職者数もようやく動きが見え始め、一時期の人材不足が緩和されている様子が見え始める。
		求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・業種を問わず、人材募集を積極的に行っている。現在のところは上向きの景況感だが、人材不足等により先行きは不透明。
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は高水準で推移しているものの、正社員に限れば低水準のままである。
		民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・求人数は持ち直しつつあるが、従前及び欠員補充の求人が多くみられ、中途採用者や新卒者を増員しようとする企業は少ない。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・4月は各企業ともある程度強気の販促活動をしていたが、5月は販売に直結する折込チラシやテレビスポット広告の扱いが減少している。広告主には消費税増税による消費マインドの低下がみられる。実際、カーディーラーでは5月の販売が落ちたことから、販促計画を練り直している。
		職業安定所（職員）	それ以外	・4月の月間有効求人倍率は1.03倍で、3か月前より0.10ポイント低下している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・管内の自動車部品製造会社では、親会社の海外シフトに伴って受注量が減少し、人員の雇用調整を検討している。
	悪くなっている	-	-	-